

レジメン登録フォーマット

申請年月日	平成30年5月14日	使用開始日	
登録診療科	血液内科	申請医師	上田 周二
レジメン名	R-IVAC	化学療法委員会承認年月	平成 30年 6月
疾患名	非ホジキンリンパ腫	適応の備考	リツキシマブは、CD20陽性の場合に使用する
適応分類			R-CODOX-MとR-IVACを交互に2コースずつ行う
1コース日数	21 日間	総コース数	2 コース
			副作用リスク   day1-5:中等度、day6.7.9.21:最小度
抗がん剤投与量・投与日	キロサイド2000mg/m <sup>2</sup> × 2 day1-2、イホマイド1500mg/m <sup>2</sup> day1-5、エトポシド60mg/m <sup>2</sup> day1-5、リツキシマブ375mg/m <sup>2</sup> day6.21、 【髄注】メトレキセート15mg/body・プレドニン20mg/body day5、キロサイド40mg/body・プレドニン20mg/body day(7).(9)		
治療スケジュール・投与日程(投与日は●)	(day)		

投与順	ルート・方法	薬剤名	投与量	投与時間	投与日																				
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
1	主ルート	生食250mL	1 本 / body		●																				
	点滴静注	プロイメンド注150mg	1 本 / body	30分	●																				
2	主ルート	グラニセトロン注ハク1mg/50mL	1 本 / body	30分	●	●	●	●																	
	点滴静注																								
3	主ルート	生食500mL	1 本 / body		●	●																			
	点滴静注	キロサイド注	2000 mg / m <sup>2</sup>	2時間	●	●																			
Rp3とRp9を12時間毎に投与する キロサイドと同量の生食を抜いてから混注																									
4	主ルート	生食500mL	1 本 / body		●	●	●	●																	
	点滴静注	イホマイド注	1500 mg / m <sup>2</sup>	2時間	●	●	●	●																	
5	主ルート	生食50mL	1 本 / body		●	●	●	●																	
	点滴静注	ウロミキサン注400mg	300 mg / m <sup>2</sup>	5分	●	●	●	●																	
イホマイド投与開始後に投与する																									
6	主ルート	生食500mL	1 本 / body		●	●	●	●																	
	点滴静注	エトポシド注	60 mg / m <sup>2</sup>	2時間	●	●	●	●																	
100mg当たり、250mLの生食または5%ブドウ糖液に混和する																									
7	主ルート	生食50mL	1 本 / body		●	●	●	●																	
	点滴静注	ウロミキサン注400mg	300 mg / m <sup>2</sup>	5分	●	●	●	●																	
イホマイド投与開始4時間後に投与する																									
8	主ルート	生食50mL	1 本 / body		●	●	●	●																	
	点滴静注	ウロミキサン注400mg	300 mg / m <sup>2</sup>	5分	●	●	●	●																	
イホマイド投与開始8時間後に投与する																									
9	主ルート	生食500mL	1 本 / body		●	●																			
	点滴静注	キロサイド注	2000 mg / m <sup>2</sup>	2時間	●	●																			
Rp3とRp9を12時間毎に投与する キロサイドと同量の生食を抜いてから混注																									
10	主ルート	生食500mL	0.675 本 / m <sup>2</sup>																				●		
	点滴静注	リツキシマブ注	375 mg / m <sup>2</sup>	下記																			●		
10倍に希釈する。day21のリツキシマブは「次回治療の前」投与分																									
11	主ルート	生食50mL	1 本 / body	5分	●	●	●	●	●														●		
	点滴静注																								
12	なし	メトレキセート注	15 mg / body																						
	髄注	プレドニン注	20 mg / body																						
		生食20mL	1 本 / body																						
13	なし	キロサイド注	40 mg / body																						
	髄注	プレドニン注	20 mg / body																						
		生食20mL	1 本 / body																						
14	経口投与	ポラミン錠2mg	1-3 錠 / body																				●		
		ジクロフェナクNa錠25mg	1 錠 / body																				●		
リツキシマブ投与の30分前																									

【投与上の注意】

- 1コース日数は21日間以上空ける(造血回復後に次のコースを開始する)。
- day7.9のキロサイド・プレドニン髄注は、初発時に中枢神経浸潤のある症例の初回治療時のみ投与する。
- プロイメンドは血管痛が報告されているため、溶解には可能な限り生食250mLを使用すること(最低でも100mL以上)。
- プロイメンドは抗がん剤投与の1時間前に30分かけて点滴すること。
- プロイメンドの次に5-HT3受容体拮抗薬+デキサート注を投与して、その次に抗がん剤を投与することとなっているが、このレジメンはデキサートの投与は不要。
- イホマイド・イホマイド投与中は、必要に応じて輸液1000mLあたり40mLの7%イオン注を混和して投与し、尿のアルカリ化をはかること。また、必要に応じてマンニトール等の利尿剤を投与すること。
- エトポシド: DEHPフリー点滴セット使用。
- キロサイド: 大量投与時、結膜炎予防のためのステロイド点眼を行う。例えば0.1%フルメロン点眼、1日3回、両眼、キロサイド投与前日から投与終了の翌日まで。
- リツキシマブ: 前投薬としてポラミン(2)1~3錠、ジクロフェナクNa(25)1錠を内服する。
- リツキシマブ: 初回はECGモニターをつける。
- リツキシマブ: 投与速度は初回は25mL/h × 1h、100mL/h × 1h、残りは200mL/hとする。
- リツキシマブ: 2回目以降はinfusion reaction が初回になれば100mL/h × 1h、残りは200mL/hとする。